2025 年度 益田の医療を守る市民の会
定期総会を開催しました！

6 月 28 日（土）、益田駅前ビル EAGA にて 2025 年度総会を開催しました。総会には、益田市の山本浩章市長、福原宗男議長をはじめ、市内病院、関係機関、市議会福祉環境委員会等からご来賓いただきました。

総会の概要を報告します。

1. 尾庭 昌喜 会長あいさつ要旨

尾庭 昌喜 会長の挨拶

後期高齢者になった私は、益田は良いまちと一層思うようになった。自然環境に恵まれ、歴史、文化も豊かで暮らしやすいまちである。これらに教育体制が更に整い、医療、介護、福祉が充実すれば、より暮らしやすいまちになる。

その医療について、約 17 年前にこの地域では、医師不足、特に産科医不足となり、里帰り出産がままならなくなった。それをきっかけに「益田の医療を守る市民の会」が設立され 16 年が経った。初期の目的は達成されたが、現状はどうだろうか。

今年も市内三病院に多くの医師、研修医の皆さんが赴任された。更に今年は市内に新たに開業された医院もあり大変嬉しく思う。

ところが、中長期的に医療体制を考えると様々な課題がある。まず、少子高齢化がこのまま進むと、現在の医療体制を維持することが大変厳しくなる。これに対処するには、吉賀町、津和野町を加えた益田圏域、更には石見全体で考える必要がある。

次に、益田圏域においても、開業医の先生方の高齢化が進み、このままだと近い将来半減する恐れがある。

では、私達が安心して医療にかかるためには、何が出来るのか。まず、医療従事者の皆さんが健康で楽しく過ごしていただくために、医療現場の忙しさを理解するとともに自分たちの思いもしっかり伝え、そして感謝の念を伝えることだ。このように医療関係者の皆さんと市民をつなぐ架け橋になれるよう努めたいと思う。

つぎに、私たちの会と同じような活動をしている吉賀町、津和野町の皆さんと交流、連携を深め、広域で取り組みたいと思っている。

最後に、私たちの会主催で医療体制に関する学習会を昨年の 9 月より始めた。二ヶ月に一回のペースで、島根県保健医療計画を基に毎回テーマを設定し、5 月には救急医療をテーマに実施した。広く皆さまに参加を呼びかけたところ、嬉しいことに高校生の参加も多数あった。

2. 山本 浩章 市長来賓挨拶要旨

山本　浩章　市長の来賓挨拶

益田の医療を守る市民の会の皆さんには、大変熱心に取り組んでいただき感謝している。活動の一つ一つの積み重ねが今の益田の医療体制維持につながっていると感じている。

若者や女性がいきいきと働き活躍するまちをつくるため、地方における医療従事者の確保は、地域間格差を拡大させないためにも必要であると同時に、喫緊かつ最重要の課題。

今後も地域医療を守るため、市民の会の皆様と一緒に取り組んでいけたらと思っている。

3. 2025 年度事業計画

今年度計画に加えられた事業として、昨年９月から隔月開催している「益田の医療体制に関する学習会」の継続、公式 SNS での情報発信強化（Facebook、市のホームページ、会員専用公式 LINE)、益田圏域医療住民団体（津和野町・吉賀町）との交流があげられる。

学習会は、現場からの報告が中心で参加者が増加している。SNS 情報発信では、これまで希薄だった会員向け情報提供として、会員専用公式 LINE を新たに追加し、Facebook での発信も強化している。

また、適正受診を呼びかける啓発活動用マグネット版が少なくなったために、追加作成することとしています。

当日承認された事業計画､役員体制は下記リンク(市ホームページ)を参照されたい。

事業計画：2025shiminnokai_zigyoukeikaku.pdf

役員体制：2025shiminnokaiyakuinmeibo.pdf

４．記念講演　要旨

みんなで知って、みんなで守ろう！益田の医療　「地域医療と総合診療医*[1]」

益田赤十字病院 総合診療科部長　岡本 栄祐 先生（浜田市出身）

２００９年に益田赤十字病院に赴任、当時医師不足が深刻化する中で暗中模索、まず初期臨床研修医育成に取り組んだ。さらに島大と連携した総合診療専門研修プログラムによる総合診療医育成を進めてきて、徐々に医師が集まり始めた。

そんな最中、COVID－19 が猛威を振った。その際、フロントに立ったのは総合診療医だった。誰もコロナ診療をやりたがらない中、率先して看護師と共にコロナ病棟へ足を運んだ。

まさに、ボランティア（奉仕）精神で、全力で地域のために走ってきた。ふと、周りを見ると一緒に伴走してくれる仲間が増えていた。

講演会の様子：想定上回る多くの聴講者

これが、現在の総合診療になっている。現在、赤十字グループにおいて最大の総合診療医師数を誇っている。

これまで、医師不足であった益田に人が集まってきたのは、ボランティア精神で地域を思い行なった活動が実を結んだものであると確信している。お金じゃ買えない価値があると言える。そしてそこには強い絆がある。

少子化の中、医療に従事する若者が減少している。今後は地域においてのボランティア活動を、特に中高生を対象とした医療体験学習などを行なっていきたい。

また高齢者死亡がますます増加する中、尊厳を持って終末期を迎えるために ACP*2（人生会議）の重要性が高まっている。この取り組みにも尽力してきたいと思っている。私の夢は、益田医療圏域を世界 No1 にすること。

＊1　総合診療医：特定の臓器や疾患を専門とするのではなく、幅広い視野で患者や家族を見守り、地域を支えるオールラウンドプレイヤー。患者を一人の人として、生活を支える家族を含めてまるごと診る。予防から人生の最終段階まで継続的に診て、地域全体の健康を考える専門医。

＊2　ACP（アドバンス・ケア・プランニングの略、人生会議ともいう）：将来の医療やケアについて本人、家族、医療チーム等が話し合い、本人の意思決定を支援する取り組み。人生の最終段階まで尊厳を尊重した医療提供を目指す。